

取組の名称		児童養護施設との里山開拓／ふるさとづくり	
活動主体（団体名）		特定非営利活動法人 東京里山開拓団	
活動主体（団体名）（フリガナ）		トクテイヒエイリカツドウホウジン トウキョウサトヤマカイクダン	
取組の内容 （自由記述）	①概要	虐待や貧困などで親から離れて暮らす児童養護施設の子どもたちと一緒に、荒れた山林や空き家を再生し、里山の恵みを生かしたふるさとを自ら創り上げるボランティア活動	
	②取組内容を確認できるURL （または資料添付）	http://satoyamapioneers.web.fc2.com/ http://satoyamapioneers.web.fc2.com/m41mizogoi.html	
	③実施時期、頻度	週末(月2～4回)	
	④活動場所（所在地）	八王子市美山町、世田谷区、豊島区など	
	⑤活動の規模（参加者数）	40名	
	⑥活動状況がわかる写真（撮影年月日）（既に実施している場合）※		
	2022年10月9日	2022年4月17日	
対応する社会課題 （該当する項目にチェック／複数選択可）		<input checked="" type="checkbox"/> 子供の福祉（子供の健やかな成長を社会全体でサポート） <input type="checkbox"/> 都民の健康・長寿（誰もが元気で心豊かに暮らせる地域の実現） <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ形成（誰もが集い、支え合うコミュニティを至るところに形成） <input type="checkbox"/> 防災・減災／気候変動対策（地球温暖化に伴う豪雨や自然災害等の被害軽減） <input type="checkbox"/> 地域振興（東京全体の生産性、魅力向上） <input type="checkbox"/> 観光・文化振興（人々のウェルビーイング、東京のプレゼンス向上） <input type="checkbox"/> 農林水産業の成長（危機に強い産業構造への転換） <input checked="" type="checkbox"/> 緑や水辺を生かした空間の創出／自然地保全・管理（都市機能を高め、世界を魅了）	
活用している生態系の機能 （該当する項目にチェック／複数選択可）		<input type="checkbox"/> 供給サービス（日々の暮らしに必要な資源を供給／食料、繊維、木材、水、薬品など） <input type="checkbox"/> 調整サービス（二酸化炭素の吸収） <input type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／ヒートアイランド現象・暑熱環境の緩和） <input type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／大気汚染や騒音の低下） <input type="checkbox"/> 調整サービス（災害の緩和／台風、洪水、津波、地滑り、雨水浸透、Eco-DRR） <input type="checkbox"/> 調整サービス（水質の浄化／窒素やリンの吸収、有機物の取り込み） <input type="checkbox"/> 調整サービス（花粉媒介／植物の世代交代、農作物の収穫量の増加） <input checked="" type="checkbox"/> 文化的サービス（精神を豊かにする機能／芸術的・文化的なひらめき、教育的効果、心身のやすらぎ、観光レクリエーションなど） <input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（生息・生育環境の提供） <input type="checkbox"/> 基盤サービス（光合成による酸素の生成） <input type="checkbox"/> 基盤サービス（地力の維持及び栄養循環）	
貢献の内容 （自由記述）	①人間の幸福に対して	児童養護施設の子どもたちは、社会的養護の下でも、虐待などからのトラウマを抱え、帰るべき家や頼りにできる家族が持たず、退所後に控える大きな不安の中で暮らしている。そこで、本活動では開拓者精神を自ら発揮して、荒れた山林や空き家を再生し、里山の恵みを生かしたふるさとを創り上げることを通じて、自らへの自信、仲間との協力、自然とのつながりを深め、将来にわたって通うことのできるふるさとという心の安定にとってかけがえのない場を作り上げようとしている。私たちは「社会課題克服の志を強くもち、眠らせていたボランティア&開拓者精神を発揮し、荒れた山林、空き家といった埋もれた資源を生かして、ふるさとを自ら楽しみながら創り出す方法」によって、「様々な立場の人間も含めた多様な生命が心豊かに永続して共存できる状態」を目指している。	
	②生物多様性に対して	児童養護施設の子どもたちと定期的に里山や空き家に通い続け、かかわり続けて、荒れて放置されていたところを人間が活用できるよう再生しつつ、多様な生物とも共存できるよう、自動撮影カメラによる定点観察を続けてきた。 定点観察では里山に生息する多様な生き物を観察できたほか、2021年8月と10月には環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているミソゴイを確認した。ミソゴイは、人の手が入った里山を好む「里山のシンボル」とも言われており、里山開拓の効果が表れていると考えられる。	